

経常収支比率の算定について

1 経常収支比率とは

地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標で、人件費、扶助費、公債費などのように毎年度経常的に支出する経費(経常的経費)に充当された一般財源の額が、地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源(経常一般財源)の総額と減収補てん債特例分、臨時財政対策債の合計額に占める割合

【算定式】

$$\text{経常収支比率 (\%)} = \frac{\text{経常経費に充当された経常一般財源}}{\text{経常一般財源総額} + \text{減収補てん債特例分} + \text{臨時財政対策債}} \times 100$$

この指標の比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表す。

2 経常収支比率の算定 (平成20年度の場合)

$$\text{経常収支比率} \\ 91.5\% = \frac{55,639,983 \text{千円}}{57,730,642 \text{千円} + 812,100 \text{千円} + 2,252,900 \text{千円}} \times 100$$

3 経常収支比率の推移 (平成16年度～20年度決算)

(単位：億円)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
経常経費充当一般財源	495.0	509.6	529.4	539.1	556.4	← 分子
経常一般財源総額等	596.0	584.2	611.9	602.8	608.0	← 分母
経常収支比率 (%)	83.1	87.2	86.5	89.4	91.5	

